

**2026 年度大学院入試**  
**(修士課程) III 期 (3/6)**  
**専攻科目・外国語科目試験問題**  
**心理臨床学専攻**  
**(120 分)**

＜注意＞

1. 試験開始の合図があるまでこの冊子は開いてはいけません。
2. この冊子は 6 ページあります。ページの脱落や解答用紙の汚れがあった場合には、監督者に申し出てください。

**2026 年度大学院入試 (修士課程) III 期 (3/6)**  
**専攻科目・外国語科目試験問題 心理臨床学専攻 120 分**

|      |  |
|------|--|
| 受験番号 |  |
| 氏名   |  |

問 1. 次の用語の意味を説明せよ。

- (1) 汎適応症候群(general adaptation syndrome)
- (2) 内田クレペリン精神作業検査(Uchida-Kraepelin performance test)
- (3) 三項関係(triadic interaction)
- (4) ギャング・エイジ(gang age)
- (5) 栄光浴(basking in reflected glory)
- (6) 母集団(population)
- (7) 認知負荷(cognitive load)
- (8) 半側空間無視(hemispatial neglect)

問 2. 以下の 2 つの問題の中から 1 つを選択し、800 字程度で解答せよ。

- (1) 心理学研究法における、質問紙法、面接法、観察法。実験法について、それぞれの利点と欠点を述べよ。
- (2) 心理臨床においては、専門職としての「境界(boundary)」が重要であるとされる。この場合の「境界」とは何であるかを説明したうえで、①境界が揺らぐ背景要因、②境界を維持することの意義とその限界について論ぜよ。

**2026 年度大学院入試 (修士課程) III 期 (3/6)**  
**専攻科目・外国語科目試験問題 心理臨床学専攻 120 分**

|      |  |
|------|--|
| 受験番号 |  |
| 氏名   |  |

問 3. 次の英文を読み、愛情に関する考え方や行動の仕方について、筆者のエピソードを交えて要約せよ。

I'd like to suggest a more helpful way to think about love. Instead of a feeling, think of love as an action. The feeling of love comes and goes on a whim; you can't control it. But the action of love is something you can do, regardless of how you are feeling. For example, sometimes when my wife and I have an argument, we snap and yell at each other, get louder and louder, and eventually end the quarrel by storming off to different rooms of the house. This is not helpful or useful. It does not bring us closer together, and it does not resolve the issue; it just wastes time and drains the life from our relationship. We have learned the hard way that the sooner we can repair the damage, the better for both of us. Sometimes my wife is the first to reach out and try to resolve things—and at other times, I am. But one or the other of us will do it before long.

This is not easy. To do this, you need to open up and make room for your anger without letting yourself get consumed by it. You need to let go of all your thoughts about how you are in the right and your partner is in the wrong. You need to reconnect with your values: remember the sort of partner you want to be and the sort of relationship you want to build. And then you need to take action.

A few weeks ago my wife, Carmel, and I had a huge row, and on that occasion I was the first to reach out and attempt to make up. I was still very angry and I still believed that I was right and she was wrong, but revitalizing our relationship was more important to me than “being right.” So I went into the bedroom where Carmel was reading and I apologized for yelling, and asked if she would like a cuddle. She said, “No, but if you want one we can have one.” So we lay on the bed and we cuddled. But I was not feeling love for Carmel as I cuddled her. Instead I was feeling tension, frustration, anger, righteousness—and a strong urge to continue the argument and try to win it. (And Carmel was feeling pretty much the same). However, despite those strong feelings, we continued to hug each other, and eventually we both calmed down. So clearly we were both doing the actions of love, even though feelings of love were absent.

The fact that you can act with love even when you don't feel love is very empowering. Why? Because whereas the feelings of love are fleeting and largely out of your control, you can take the actions of love anytime and anyplace for the whole rest of your life. Indeed, this truth applies to all human feelings. For example, you can feel angry but act calmly. You can feel anxious but act confidently. And this ability leads us to one of the key themes in ACT: stop trying to control how you feel, and instead take control of what you do. (This emphasis on action is why ACT is pronounced as the word “act” rather than as the initials A-C-T.)

出典： Russ Harris(2023)*ACT with Love: Stop Struggling, Reconcile Differences, and Strengthen Your Relationship with Acceptance and Commitment Therapy*. New Harbinger Pubns Inc., Pp. 13-14.

2026 年度大学院入試 (修士課程) III 期 (3/6)  
専攻科目・外国語科目試験問題 心理臨床学専攻 120 分 解答用紙

|      |  |
|------|--|
| 受験番号 |  |
| 氏名   |  |

問 1.

(1)

(2)

(3)

(4)

2026 年度大学院入試 (修士課程) III 期 (3/6)

専攻科目・外国語科目試験問題 心理臨床学専攻 120 分 解答用紙

|      |  |
|------|--|
| 受験番号 |  |
| 氏名   |  |

問 1(続き).

(5)

(6)

(7)

(8)

**専攻科目・外国語科目試験問題 心理臨床学専攻 120 分 解答用紙**

|      |  |
|------|--|
| 受験番号 |  |
| 氏名   |  |

[illegible]

2026 年度大学院入試 (修士課程) III 期 (3/6)

専攻科目・外国語科目試験問題 心理臨床学専攻 120 分 解答用紙

|      |  |
|------|--|
| 受験番号 |  |
| 氏名   |  |

問 3.

## 2026 年度 大学院入試(修士課程) III期

### 問 1. 次の用語の意味を説明せよ。

#### (1) 汎適応症候群(general adaptation syndrome)

##### 【解答例】

汎適応症候群とは、セリエ(Selye, H.)が提唱した、ストレッサーに対して生体が示す非特異的な適応反応のことである。ストレッサーの種類にかかわらず、生体には共通した反応が生じ、その経過は警告反応期、抵抗期、疲憊期の3段階に分けられる。警告反応期は、ストレッサーに直面した初期の段階であり、一時的に抵抗力が低下するショック相と、その後、生理的な反応が活性化して抵抗力が高まる反ショック相からなる。抵抗期では、ストレッサーに対する抵抗力が高まり、生体はストレスに適応し、比較的安定した状態を維持する。しかし、ストレッサーが長期間持続すると疲憊期に至り、生体の適応能力や抵抗力が低下して、心身の不調や疾病が生じやすくなる。

##### 【解答のポイント】

- ・ Selye(セリエ)の提唱した概念であること
- ・ ストレッサーに対する生体の非特異的な適応反応であること
- ・ 警告反応期 → 抵抗期 → 疲憊期という3段階を示していること
- ・ 警告反応期について、ショック相と反ショック相を説明できていること
- ・ 抵抗期では、ストレッサーへの抵抗力が高まり、適応状態が維持されること
- ・ 疲憊期では、ストレスが長期化することによって抵抗力・適応能力が低下し、心身の障害や疾病につながり得ること

#### (2) 内田クレペリン精神作業検査(Uchida-Kraepelin performance test)

##### 【解答例】

クレペリンの精神作業に関する研究をもとに、内田勇三郎が開発した作業検査法による心理検査である。隣り合う一桁の数字を加算し、答えの一の位を記入する作業を、1分ごと

に行を変えて行う。前半 15 分、5 分間の休憩、後半 15 分から構成される。作業量、1 分ごとの作業量を結んだ作業曲線、誤答などから、作業遂行能力や性格・行動面の特徴を把握する。教育・産業・臨床などの領域で用いられるが、結果は疲労や受検態度などにも左右されるため、他の情報と併せて解釈する必要がある。

#### 【出題意図】

心理アセスメントにおける代表的な作業検査について、基本的な知識・理解度を確認する。とくに、実施方法と作業曲線などの評価指標を理解し、単なる計算能力の検査と区別して、その特徴と解釈上の留意点を説明できるかを評価する。

### (3) 三項関係(triadic interaction)

#### 【解答例】

三項関係とは、「自己」と「他者」と「もの」の三者間の関係を指す。自己と他者または自己とものとの二者間の閉じられた関係を指す二項関係と対比される。三項関係が成立するのは約 9 か月頃であり、この三項関係の成立は、社会性やコミュニケーションの発達の基礎となる大きな変化で「9 か月革命」と呼ばれる。

#### 【出題意図】

発達心理学の基本的な知識・理解度を確認する。

### (4) ギャング・エイジ(gang age)

#### 【解答例】

ギャング・エイジとは、小学校中学年頃から現れる特徴の一つであり、ギャング・グループと呼ばれる同性・同年齢の集団を形成して同一行動をして遊ぶようになり、仲間関係を大切に始める時期のことである。この時期に形成される集団は仲間同士の結びつきが強固であり、排他性、閉鎖性、権威に対する反抗性が強いという傾向をもつ。比較的男子に多いとされる。

### 【出題意図】

発達心理学の基本的な知識・理解度を確認する。

### (5) 栄光浴(basking in reflected glory)

#### 【解答例】

栄光浴とは、自分と直接関係していない他者の評価や成功を自分のことのように感じ、自己評価を高める方略である。

### 【出題意図】

自尊感情を維持・高揚する方略の 1 つである栄光浴について理解し、論述できるかを評価することが出題意図である。

### (6) 母集団(population)

#### 【解答例】

母集団とは、調査対象となる数値や属性のすべての集合を指すものである。母集団全体を調査することは、コストや時間の制約から現実的に難しい場合が多く、実際の調査においては母集団の一部を抽出した標本を用いて母集団の特性を推定する。

### 【出題意図】

統計学の基礎である母集団について理解し、論述できるかを評価することが出題意図である。

### (7) 認知負荷(cognitive load)

#### 【解答例】

情報を理解・記憶・処理する際に、作業記憶にかかる負担のことである。情報量が多すぎたり、課題が複雑であったりすると認知負荷が高まり、学習や問題解決などの認知活動が困難になり、理解や作業の効率が低下する。

臨床心理学においても、クライアントの認知的な特性や状態を踏まえて課題や支援方法を考える際に重要となる。

### 【出題意図】

認知負荷の基本的な概念を、作業記憶などの認知機能との関連から理解しているかを確認する。また、認知負荷が高い状態では課題遂行や理解が困難になることを踏まえ、心理的・発達的な問題を認知機能との関連から捉える基礎的な理解があるかをみる。

### (8) 半側空間無視(hemispatial neglect)

#### 【解答例】

半側空間無視とは、脳損傷などによって、主に損傷と反対側の空間にある刺激や対象に注意を向けたり認識したりすることが困難になる高次脳機能障害である。視力や視野そのものの障害ではなく、注意などの機能の障害によって生じる。臨床場面では、日常生活上の行動にも影響を及ぼすため、神経心理学的評価やリハビリテーションにおいて重要な概念である。

#### 【出題意図】

半側空間無視について、単に「片側が見えない状態」と捉えるのではなく、視覚・視野の障害とは異なる高次脳機能障害であり、注意などの認知機能と関連することを理解しているかを確認する。また、脳損傷による認知機能の変化が日常生活や心理・行動面に及ぼす影響について、臨床心理学的な観点から理解する基礎があるかをみる。

### 問 2. 以下の 2 つの問題の中から 1 つを選択し、800 字程度で解答せよ。

- (1) 心理学研究法における、質問紙法、面接法、観察法。実験法について、それぞれの利点と欠点を述べよ。

#### 【解答例】

心理学研究法における代表的な手法である質問紙法、面接法、観察法、実験法には、それぞれ明確な特徴と長短が存在する。

まず質問紙法は、構造化された質問項目によってデータを収集する方法である。利点と

して、大人数に対して一斉に実施できるため時間的・費用的に効率が良く、得られた数値を統計的に処理しやすいため客観的な比較が可能な点が挙げられる。一方で欠点としては、回答者の自己報告に依存するため、社会的に望ましい回答を選びがちであり、言葉のニュアンスや個人の内面世界までを詳細に捉えることは難しい。

次に面接法は、対象者との直接的な対話を通じて情報を得る手法である。最大の利点は、回答の意図や背景にある文脈を深掘りでき、表情や声のトーンといった非言語的情報も取得できる点にある。柔軟な質問の再構成も可能である。しかし、実施やデータ分析に多大な時間と労力を要する上、面接者の態度や熟練度が回答に影響を与える面接者効果が生じやすく、大人数の調査には向かないという欠点をもつ。

第三に観察法は、対象者の実際の行動を直接記録する方法である。利点としては、言語的表現が困難な乳幼児や動物にも適用可能であり、自然な日常場面における生態学的妥当性の高い行動データが得られる点が挙げられる。しかし欠点として、観察されていることを意識すると行動が変わってしまう可能性や、予期する行動が発生するまで長時間を要する点、観察者の主観や予測が解釈を歪めるバイアスのリスクが挙げられる。

最後に実験法は、特定の変数を意図的に操作・統制し、その影響を測定する手法である。利点は、余剰変数を厳密にコントロールすることで、心理学研究において最も明確に変数間の因果関係を特定できる点にある。だが、人工的に調整された実験室環境で行われることが多いため、得られた結果を複雑な現実世界にそのまま適用できるかという外部妥当性に疑問が残る。

研究においてはこれらの特徴を理解し、目的や対象に応じて適切な手法を組み合わせることが求められる。

### 【出題意図】

心理学研究法における基本事項を問い、個々の研究能力を推しはかる意図がある。内部妥当性や外部妥当性への言及、各手法についての「社会的望ましさ」「面接者効果」「生態

学的妥当性」などのキーワード、目的に合わせた研究手法の組合せの必要性への言及が、解答の重要ポイントとなる。

**(2) 心理臨床においては、専門職としての「境界(boundary)」が重要であるとされる。この場合の「境界」とは何であることを説明したうえで、①境界が揺らぐ背景要因、②境界を維持することの意義とその限界について論ぜよ。**

**【解答例】**

心理臨床における境界とは、クライアントの利益を中心とする専門的援助関係を、私的な関係や援助者自身の欲求充足から区別し、双方の役割と責任の範囲を定めるものである。面接の時間・場所・料金、連絡方法、秘密保持、自己開示や身体接触の扱いなどに具体化される。また、相手の感情を理解しつつ、自他の欲求や責任を混同しない心理的な区別も含まれる。

境界が揺らぐ背景には、クライアントの依存や見捨てられ不安、援助者への理想化などの転移と、それに対する援助者の逆転移がある。援助者の救済願望、承認欲求、孤独感や疲弊によって、特別扱いや過剰な関与が生じることもある。さらに、危機場面での切迫感、地域社会での役割の重複、組織内の役割分担の曖昧さ、SNS による私的接触の容易さなど、状況的・制度的要因も関係する。したがって、境界の問題をクライアントの特性だけに帰すことはできない。

境界を維持する意義は、関係の予測可能性と安全性を確保し、専門知識や立場の非対称性を利用した搾取や侵害を防ぐことにある。安定した枠組みは、クライアントが感情や葛藤を安心して表現し、それを行動化せず検討することを支え、自律性を守る。また、援助者の過重な負担を防ぎ、援助の継続性にも寄与する。

ただし、境界を画一的に運用すると、危機への対応や障害に応じた配慮を妨げ、拒絶として体験される場合がある。訪問支援などでは、面接室内と同じ設定を維持できないこともある。必要なのは、境界の調整と、性的・経済的搾取などの境界侵害を区別することで

ある。調整に際しては、援助上の必要性、利益と危険、代替手段を検討し、本人への説明と合意、記録、スーパーヴィジョンを通じて妥当性を点検する。ただし、本人の同意があっても、搾取的な関係は正当化されない。境界の維持自体を目的化せず、その運用が誰の何を守るのかを問い続けることが求められる。

### 【出題意図】

心理臨床における専門的援助関係と職業倫理について、基本的な理解と論述能力を確認する。具体的には、境界を役割・責任や面接設定に即して説明し、その揺らぎをクライエント側、援助者側、状況・制度側の複数の要因から捉えられるかを評価する。また、安全性や権利の保護という境界維持の意義と、画一的な運用の限界の双方を理解し、臨床的に必要な調整と搾取的な境界侵害を区別して論じられるかを評価する。

### 問 3. 次の英文を読み、愛情に関する考え方や行動の仕方について、筆者のエピソードを交えて要約せよ。

I'd like to suggest a more helpful way to think about love. Instead of a feeling, think of love as an action. The feeling of love comes and goes on a whim; you can't control it. But the action of love is something you can do, regardless of how you are feeling. For example, sometimes when my wife and I have an argument, we snap and yell at each other, get louder and louder, and eventually end the quarrel by storming off to different rooms of the house. This is not helpful or useful. It does not bring us closer together, and it does not resolve the issue; it just wastes time and drains the life from our relationship. We have learned the hard way that the sooner we can repair the damage, the better for both of us. Sometimes my wife is the first to reach out and try to resolve things—and at other times, I am. But one or the other of us will do it before long.

This is not easy. To do this, you need to open up and make room for your anger without letting yourself get consumed by it. You need to let go of all your thoughts about how

you are in the right and your partner is in the wrong. You need to reconnect with your values: remember the sort of partner you want to be and the sort of relationship you want to build. And then you need to take action.

A few weeks ago my wife, Carmel, and I had a huge row, and on that occasion I was the first to reach out and attempt to make up. I was still very angry and I still believed that I was right and she was wrong, but revitalizing our relationship was more important to me than “being right.” So I went into the bedroom where Carmel was reading and I apologized for yelling, and asked if she would like a cuddle. She said, “No, but if you want one we can have one.” So we lay on the bed and we cuddled. But I was not feeling love for Carmel as I cuddled her. Instead I was feeling tension, frustration, anger, righteousness—and a strong urge to continue the argument and try to win it. (And Carmel was feeling pretty much the same). However, despite those strong feelings, we continued to hug each other, and eventually we both calmed down. So clearly we were both doing the actions of love, even though feelings of love were absent.

The fact that you can act with love even when you don’t feel love is very empowering. Why? Because whereas the feelings of love are fleeting and largely out of your control, you can take the actions of love anytime and anyplace for the whole rest of your life. Indeed, this truth applies to all human feelings. For example, you can feel angry but act calmly. You can feel anxious but act confidently. And this ability leads us to one of the key themes in ACT: stop trying to control how you feel, and instead take control of what you do. (This emphasis on action is why ACT is pronounced as the word “act” rather than as the initials A-C-T.)

出典： Harris, R. (2023). *ACT with love: Stop struggling, reconcile differences, and strengthen your relationship with acceptance and commitment therapy*. New Harbinger Pubns Inc., Pp. 13-14.

### 【解答例】

筆者は、愛情を移ろいやすく自分では十分に制御できない「感情」としてではなく、自分で選択できる「行動」として捉えることを提案している。筆者と妻は口論になると互いに声を荒らげ、別々の部屋へ行ってしまいうことがあったが、それでは問題は解決せず、関係を消耗させるだけだと学んだ。ある大げんかの後、筆者は自分が正しいという思いや怒りを抱えたまま、関係を立て直すことの方を大切にし、妻に怒鳴ったことを謝って抱き合うことを提案した。二人に愛情の感情はなく、緊張や怒りも残っていたが、抱き合うという愛情に基づく行動を続けるうちに落ち着くことができた。大切なのは、感情を無理に抑えたり変えたりすることではなく、怒りや不安があっても、自分が大切にしたい価値に沿う行動を選ぶことである。これは、感情の制御よりも行動の選択を重視する ACT の中心的な考え方である。

### 【出題意図】

英文の主要な主張と具体的なエピソードを対応させ、文章全体を日本語で的確に要約する力を確認する。語句や文の逐語訳ではなく、①愛情を感情ではなく行動として捉えること、②怒りを抱えながらも価値に沿った関係修復行動を選んだ夫婦の例、③感情を制御しようとするより行動を選択するという ACT の主題を把握し、筋道立てて表現できるかを評価する。